

令和4年度 京都府立洛東高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (最終評価段階)

令和5年3月30日

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)		
<p>めまぐるしく変化していく社会の中で、変化を前向きにとらえて主体的に行動し、夢と希望を持って自立的に未来を切り拓いていくための知識・技能及び変化に対応する力を身に付ける。</p> <p>◎「洛東高校生」としての誇りを持ち、自らに人間的成長を図る生徒の育成 ◎生徒が確実に学力面で成長するために、知識・技能に加えて、学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力等、幅広く育む ◎自己の進路目標を見定め、その達成に向け何事にも意欲的・探究的に取り組めるための支援の推進 ◎「あたり前のことをあたり前にする」態度、特に基本的な規範意識と倫理観、公共心や他者を思いやる心など、豊かな人間性・社会性を育む教育活動の推進 ◎ICT教育の充実と、校務のICT化等の教育情報化の推進 ◎地域とともにある学校として、コミュニティスクールの取組を充実させるとともに、将来の社会の担い手として地域社会に貢献できる力を育む</p>		<p>・スクールミッション、スクールポリシーの策定に向け、「洛東高校のグランドデザイン」を明確にし、教科・分掌の指導が一体となる体制づくりとともに、効果的な広報活動を展開する。</p> <p>・新学習指導要領の実施に向け、授業デザイン、観点別評価の両面から、さらなる研修を進めるとともに、評価の観点を明確にした評価計画を作成し、指導と評価の一体化を図る。</p> <p>・ICTの利活用について、一人一台端末の円滑な導入に向けて各分掌が連携し進めるとともに、教科を超えた教材の研究や研修を進め、ICT教育の推進を図る。</p> <p>・学習習慣の定着、希望進路の早期決定と実現、基本的な生活習慣(遅刻、身だしなみ、家庭学習・授業への取り組み姿勢等)について、教務部・進路指導部・生徒指導部が中心となって相互に関連付けを行い、一人ひとりに寄り添いながら、具体的でわかりやすい指導を学年部と連携して行う。</p> <p>・各学年の課題を明確にし、継続的・発展的な進路指導ができるよう、学年・教科と連携して具体的な仕掛けづくりを進める。</p> <p>・持続可能な社会の構築の視点から環境整備・美化活動を推進するための取組を、美化委員会と一緒に進める。</p> <p>・スクールカウンセラーやSSW、外部の諸機関と連携し、様々な課題を抱える生徒への対応を進める。</p>	<p>『 寄り添い 育て 鍛え 送り出す 』</p> <p>進路指導 『入学当初から・定期的継続的に・視野を広げる情報提供・内定後指導』 学習指導 『授業を大切に・公開授業充実・個に応じて・観点別評価・希望進路に照らして』 特別支援 『情報共有・家庭、関係機関との連携・個に応じて・日常観察』 ICT活用 『校内研修の充実・教材開発、共有・他校連携・チャレンジ』 生徒指導 『褒める・生徒の自主性や主体性を引き出す・温度差のない指導』 部活動 『積極的な部活動参加・活動を通じた人間力の育成・学校の中心的存在』 広報活動 『全校体制で・HPの充実・SNSの活用・在校生、卒業生の活躍を紹介・出身中学校へのアプローチ』 労働環境 『超過勤務激減・整理整頓・相互理解と協力・意識向上・ライトダウンデーの設定』</p>		
評価領域	重点目標	具体的方策	評価		
			中間	最終	総合
教育課程 学習指導 (教務部)	基礎学力の向上のための研究と実践を行い、多様な進路実現に繋がる指導を実践する。	新教育課程の実施にともない、授業デザインや観点別学習状況評価の観点から、さらなる研修の確保や実施に向けた環境づくりを行うとともに、生徒の学習意欲や学力の向上につながる、指導と評価の一体化にむけた投げかけや体制づくりを進める。	C	C	<p>新教育課程での3観点の学習評価の実施に向けて、年度当初に、「観点別学習状況評価」の研修会を行い、評価方法や評価のカットライン、課題等について、投げかけや情報共有を行い、実施に向けた体制づくりを進めることができた。しかし、評価規準や各観点の評価内容、評定をつける際のカットライン、観点の重みの調整など、実際の運用状況を踏まえての見直しや調整は十分に行えていない。次年度に向けて引き続き検討を行っていく必要がある。</p> <p>本校のグランドデザイン策定に向けて、分掌・教科に策定を依頼し、全教職員が同じ方向を向いた指導を行うための準備を開始することができた。しかし、各教科・分掌で挙げられた課題や方策等を全体で共有したり、議論したりする場合は設定できていない。府教委から提示されるスクール・ミッションを踏まえて、3つのポリシー(スクール・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)の策定や新たな取り組みや本校が抱える課題解決に向けた方策に繋げていく必要がある。</p> <p>公開授業週間を6月と11月の年2回設定し、また、教科内で最低でも年1回は研究授業を実施するなど、授業改善や授業力向上につながる機会を確保することができた。今後は、公開授業週間ごとにテーマ設定し、また、授業見学时に求められる視点を共有するなど議論をもとに授業力向上がなされる体制づくりを進めていく必要がある。</p>
		洛東高校のグランドデザインを明確にし、教科、分掌からの指導が一体となる体制づくりを進める。	C	C	
		教科の枠を越えて、研究授業や公開授業週間など、授業研究や改善に繋がる機会を確保し、授業改善や授業力向上のための一助とする。	B	B	
生徒指導 (生徒指導部)	学校生活(学校行事、部活動、ボランティア活動等)を通して、進路実現に向けた規則正しい生活態度の指導(身だしなみや遅刻指導等)を中心にあたり前のことをあたり前にする指導を全教職員で連携を取りながら行う。 褒める機会の充実を図り、生徒の自己肯定感を高めるとともに自らの課題を主体的に解決する意欲と実践力、社会性を育成する。	遅刻指導者数を全校生徒数の10%未満、考査ごとの皆勤賞の延べ人数を2500人を目指す。そのための方策として、新たに洛東レビューデイを設置し、考査ごとの皆勤賞受賞者の表彰、生徒への講話、振り返りシートの記入、生徒指導部だよりの発行を行い、学校生活を振り返る機会を作る。 生徒会を中心に、生徒が活躍している場面を取り上げ、全校生徒に示す機会を設けることにより、自己肯定感を高め、褒める機会の充実を図る。	C	B	<p>考査毎の皆勤賞は、延べ約1000名強であった。1学期間は、皆勤者数も多かったが、2学期3学期に進むにつれ、少なくなっていく。遅刻指導者数は、全校生徒数の約3%程度であり、特定の生徒が多く遅刻している傾向がある。その他の生徒に関しては、遅刻指導をする回数にはいっていないものの、少ないとは言いがたい。来年度からの校時変更で、どのような変化があるか分からないが、遅刻指導者数を減少させるよりも遅刻者数自体を減少させる工夫が必要だと感じる。家庭での基本的な生活習慣が身につけていない生徒がまだまだいることを痛感している。</p> <p>洛東レビューデイを新設し、様々な先生や生徒に話してもらうことにより生徒の心の変化や話しを聞いて自身の考えを見直すきっかけになっているように思う。来年度は、回数や時期を検討し、効率よい運営をしていきたい。また、生徒自身の声を聞かせることが効果的であった。</p> <p>いじめに関しては、学年団の丁寧な聞き取りもあり問題が大きくなることは今のところないが、いつ誰がどこでいじめが起こっても不思議ではないという危機感を常に持ち、様々な所に目を配っておきたいと考える。今後も学年団や関係分掌と協力体制を作っていく。</p>
	いじめの未然防止、早期発見に努め、いじめが発生した際には迅速かつ適正に対処する。	いじめに向かわない・許さない態度・能力を育成するために、人権学習はもとより日々のあらゆる教育活動を通じて自他の人権を尊重する指導を行う。日常の生徒理解、いじめアンケート、面談等により早期発見に努め、発生した際には迅速かつ適切な情報共有、いじめ対策委員会を中心とした組織的な対応等を行う。	B	B	

	3年生進学希望者の、希望実現率100%を目指す。	学年部・教科と連携し、学力実態・進路希望などの情報共有を図り、時期に応じて検討会を実施するなど、個々の進路に対応した入試対策指導を行う。	C	B	《成績資料の整理と提供》 面談に向けて各科目の成績＋模試の結果＋進路希望を1枚にまとめた個票を作成。 《情報共有の場をつくる》 ①前年度3月に三進会・二進会を実施(進路指導の継代)②三者面談前に3年生の進路検討会を実施③進路部通信を通して他学年の動きも共有。 《補習》 通常補習と夏期進学補習(2,3年)、夏期進学セミナー(1年)、冬期進学補習、春期進学補習を実施。自学自習の重要性を生徒に感じさせるためにも補習の中にもその要素を取り入れつつある。特に年度当初の生徒教員ともに多忙な時期に歩みを止めずに学習を進めることができれば大きな力になる。 《志望理由書・小論文指導》 1年次から取り組むかたちができつつある。志望理由書に関しては志望校が決まらないまま実施すると効果は薄い。2年生の冬休み明けには志望校を挙げられるように指導し、ある程度の集団はそれに沿って志望校の決定を進めることが出来た。 《模擬試験》 ①指定校推薦の応募資格として模擬試験の受験を課した最初の学年が今年卒業する。応募資格の整理にはエネルギーを必要とした。応募者への意識づけという点では一定効果があったと考える。ただ「力をつけるために模試を利用する」という本来の意味で言うと、不十分な姿勢の受験者もいた。模試終了後に自己採点をする習慣づけは少しずつ浸透してきた。②全員模試(スタディサポート・進路マップなど)の事前学習についてはもっと教科の協力を得られるように準備が必要。また、結果の分析を担当のみならず、教科や分掌から生徒に伝えられる機会をつくり、振り返りを重視する取り組みを進めていきたい。
		多様な入試に対応できるように、適切な進学補習講座・面接対策講座を設定し、定例で実施する。自学自習を基礎とした効果的な補習の在り方を工夫し、学力伸長を図る。また、志望理由書・小論文対策として、生徒に「書き方講座」の受講、小論文模試の受験を課す中で文章の書き方の基礎を固めさせ、全教職員による個別指導につなげていく。	C	B	
		各種模擬試験を受けるよう指導し、それらに対して目標設定・受験・受験直後の復習・答案返却後の復習のPDCAサイクルを確立させる。その道のりにおいてWEBテスト、動画などを効果的に活用できるよう導く。	C	B	
		入試の傾向や対策について進路部通信や研修会を通じて、教職員・生徒への発信と情報の共有に努める。	C	B	
進路指導 (進路指導部)	学校紹介を希望する3年生の、就職内定率100%を目指す。	2年生の秋から就職指導を開始し高校生の就職制度を理解させ、生徒の希望や適性に応じた指導を学年部や外部機関と連携して実施する。また、就職に向けて基礎学力と社会の一般常識を身につけさせる学習に取り組ませる。	B	B	《就職》 相変わらず「アパレル」等の業種の求人は来ないが、ホテルの求人が復活する等少しずつコロナ以前の状態に戻りつつある。週1回の就職指導講座を実施し、生徒もその指導にしっかりついてきた。結果、13名全員の内定を達成することができた。 《公務員》 国家公務員に2名合格。1名は国税局、1名は宮内庁に内定した。2名は早い段階から意識を持っており、2年時より受験勉強に取り掛かっていた。公務員希望者の指導も四大進学希望者と同様、少しでも早い段階からはっきりした目標を持たせ、学習計画を立てさせることが重要だと思われる。
		社会人としてのマナーの習得や基本技能の習得や対人能力の向上を図る指導を行う。さらにロールプレイングを用いた練習によって実践力をつけさせる。	B	B	
		面接対策を徹底する。身だしなみや入退出などの礼儀作法、言葉遣いなど粘り強く指導する。また、面接官として社会人を招聘した実践的な模擬面接を設定する。内定後も社会人になるという自覚を持たせるよう指導を継続する。	B	A	
	進路希望実現率が100%になるように、1,2年生に対し早期から具体的な見通しを持たせる。	生徒の進路希望を早期に把握し、高校3年間を見通した進路実現への道筋を考えさせる。短期・中期・長期的目標の立て方をレクチャーし、自分で計画的に学習する基礎を固める。他分掌と連携し、毎日の学習・学校生活を大切にする取り組みや進学補習・夏期進学セミナーなどを充実したものにさせる。書く力を育てるため、小論文ステップワーク等を活用する取り組みを進める。	C	B	《ICT利用》 Classiのアンケート機能を利用して進路希望調査等を行った。教材の配信などについては個々の教科の努力に頼る部分が多かった。
		進路別・分野別説明会の実施や進路部通信の発行などにより適切な情報提供を行い、進路に対する生徒の意識を高め具体的な見通しを持たせる。2年生の3学期までに生徒が自らの志望を宣言できるように導いていく。	C	B	
	ICT教材や学習支援サービスを充実させる。	生徒の学習習慣を形成し、自ら伸びていく力を育むために、WEBテスト、動画の配信、学習時間の記録などの教材やしゅくみを効果的に使っていく。	C	B	
学校保健 学校安全 教育 特別支援 (保健部)	生徒を理解し、他教職員と協力して支援の充実を図る。 環境問題・環境美化に対する生徒・教職員の意識の向上を図り、安全で快適な学校環境の整備に取り組む。	様々な課題や不安を抱える生徒・保護者に対し、スクールカウンセラーや関係機関と連携を図り、指導・支援の方法を担当・教科担当者で共有し、支援体制を整える。	B	B	・支援体制については、現状の人員でできることはできているが、支援を必要としている生徒の数(潜在的なものも含む)が多く、部員の人数の問題で手が回っていない面はある。学校として人事上の対策が望まれる。 ・ゴミステーションでの日々の指導で、分別についてはかなり整理されてきている。量のさらなる削減については、美化週間での取り組みや、HRでの呼びかけを継続しておこなう。 ・新型コロナウイルス感染予防については、手指消毒用の消毒液の配置・施設消毒・マスク着用の励行・毎朝の健康チェック等を行った。新型コロナウイルス感染症の五類引き下げも視野に入れながら、引き続き感染予防に努める。
		公共の場である学校で、掃除担当者だけでなく一人一人が分別・清掃の意識を持って環境美化に日々取り組むように指導する。 昨年度に引き続きゴミステーションでのゴミの分別指導、美化週間でのゴミ分別・削減の取り組み、ペットボトルキャップリサイクルに取り組む。	B	B	
		コロナウイルス感染予防のため、「マスク着用・咳エチケット・三密の回避・手指消毒の徹底・感染症にかからない体作り」等、withコロナの時代に必要となる意識付けを他の教職員と協力して指導し、施設消毒の徹底を行う。	B	B	

特色推進 広報活動 ICT教育 読書指導 (総務企画 部)	学校内外へ本校の特色や教育活動を発信し、ホームページや公式SNSなどを通じて広報活動を充実させる。 学校と地域・保護者等との相互の信頼形成のために、本校の教育活動について広く情報提供する。	学校ホームページを刷新したり、公式SNSの更新頻度をあげたりして、本校の教育活動や生徒の様子を発信し学校の内外に向けて積極的な広報活動を行う。また、学校公開や個別相談の内容等を見直し、中学生のニーズに合ったものにする。	C	C	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ホームページを刷新し、7月に新しいホームページに完全移行した。その際、不具合が生じホームページ内の多くのページにアクセスできない状況になったが、状況把握、共有ができておらず、改善に時間がかかった。また、昨年度より公式SNSの更新頻度を上げ、部活紹介や授業紹介なども行った。中学生や本校生徒、保護者に教育活動の様子をより分かりやすく伝えられたが、内容の精選、更新の時期等の課題もある。</li> <li>・広報活動の内容や趣旨について教職員全体に周知できず、一部の教職員に大きな負担となってしまった。次年度に向けて、学校全体として学校公開等の広報活動を進めていく体制を検討した。</li> <li>・次年度の広報活動を円滑に進めるために、次年度の学校パンフレットや学校紹介動画の内容について検討を進めた。</li> </ul>
		中学校や教育連携校、地域、PTAなどと連携をとり、本校の学校公開や中学校訪問などの取り組みが円滑に実施できるよう信頼形成に努める。	B	B		
	1人1台の学習用端末導入を円滑に進め、端末の管理・整備を行い、生徒・教員のICT活用をサポートする。 教職員へのICT教育への関心・意欲やICTのスキルを高めるための研修を行う。	学習用端末やアプリ、各アカウントの管理やトラブルの対応を行い、生徒と教員が円滑に授業でICT活用できるようにサポートする。利用規程や使用方法を生徒に周知するとともに情報モラルを身につけさせる。	C	B	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務部や第1学年部、ICT教育推進会議と連携し、大きなトラブルなく学習用タブレット端末の配布を行った。アプリの管理やタブレット端末や三脚等の貸出物品の整備等を行い、教員や生徒が学習用タブレット端末を活用を促進した。しかし、学習用端末の配布時期が遅くなったことやタブレット端末の使用に関するルールを周知できていなかったこと等、次年度への課題も見つかった。</li> <li>・タブレット端末の故障や紛失、パスワードの紛失、OSのアップデートなどに適切に対応し、生徒教員がタブレット端末を円滑に利用できるようにした。</li> <li>・授業配信が円滑に行えるように、配信に使用するタブレット端末や三脚等の物品を整備し、授業配信のシステムを構築した。今後、配信する教室数が増えた場合に対応できるのか検討する必要がある。</li> </ul>
		教職員へのICT研修を行いICTのスキルを高めるとともに、情報の取り扱いについて注意喚起する。他分掌と連携し学校全体でICT活用が進むようにする。	C	C		
生徒の読書離れ・活字離れの現状の改善に努め、利用者の視点に立った図書館運営を行う。	図書館だよりと図書委員会だよりを定期的に発行し、教室掲示またはClassiにより、生徒におすすめ図書などの情報を提示する。また、蔵書検索の便宜を図るため、京都府立図書館の推進するカーリル(蔵書検索サービス)を導入する。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員研修を実施し、教員間で共有すべき事項を周知した。また、タブレット端末導入でどんな実践ができるか各教員に検討してもらった。ICTのスキルは個人に依存している部分が大きく、教員間の差が大きい。そのため、ICTの基本的な使い方を周知したうえで、各教科で効果的な活用方法を研究、実践する機会を増やしていく必要がある。</li> <li>・2回の一斉読書週間を実施したり、図書館だよりを定期的に発行したりして、生徒の読書の習慣付けを図った。また、図書委員の生徒の活動を促した。</li> </ul>	
	図書館と授業との連携状況を紹介して、教科での図書資料活用を促進する。また、一斉読書の充実を図るため、他分掌との連携を高める。	B	B			
教育環境 整備 (事務部)	安心・安全な施設設備の維持管理を図る。	定期的に施設設備の点検を実施し、危険箇所等の早期発見、早期対応に努めるとともに、安全に施設設備を使用できるよう維持管理に努める。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常点検及び臨時点検により危険箇所等の早期発見に努めるとともに、排水管の詰まり等突発的に発生した不良箇所についても速やかに対応した。不良箇所については、予算の範囲内で修繕工事を実施し、安心安全な施設維持管理を行うことができた。</li> <li>今年度計画していたネットワーク拡張整備が完了した。また、新型コロナウイルス感染症関連による出席停止時の学習保障のための授業配信に必要な物品や、特色ある教育活動に必要な教材等を整備した。引き続き次年度に向けたネットワーク環境整備計画等を検討していく必要がある。</li> <li>各学年や進路指導部等と連携し、在学中の修学援助制度や、大学等進学後の各奨学金制度について、案内配付や教室掲示により案内し、周知した。様々な事情で必要書類の提出が遅延するケース等に対し、担任等と連携しながら更なる対応策を検討する必要がある。</li> </ul>
	特色ある教育活動や広報活動等の実施のため、学校予算を効果的に執行する。	一人一台端末の円滑な導入に向け、校内のICT環境の整備に努める。また、引き続き必要な感染症対策を講じるとともに、各分掌・教科と連携した効果的な予算執行を図る。	B	B		
	修学支援	各援護制度について周知を図り、生徒の修学や希望進路の実現を支援する。	B	B		

第1学年部	「凡事徹底」をスローガンとし、学校生活における基本的習慣を確立させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻者や無断欠席者に対し、生徒指導部や保健部、保護者と連携しながら段階的な指導を行う。</li> <li>・提出物の期限を守ることに、学年団で一致した指導を行う。</li> <li>・一般社会や学校におけるルールを守ることに、生徒指導部と連携して指導を行う。</li> <li>・学校行事や学年集会の実施後に振り返りシートを提出させて、話を聴いて理解する力を身に付けさせる。</li> <li>・言葉遣い、あいさつ、身だしなみなど、場に応じたふるまいをできるよう、学年団で一致した指導を行う。</li> </ul>	C	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻者に対する学年全体指導を原則週1回行い、生活習慣の問題点・改善点について振り返らせた。無断欠席者についても保護者に連絡し、連携して指導をしてきた。無断欠席については、保護者に連絡することで一定の歯止めには効果があったが、遅刻は何度指導しても改善が見られない生徒が少なからずおり、今後も継続して指導を行い、生活習慣の改善を促していきたい。</li> <li>・提出物の期限遵守については、随時声掛けをして、粘り強く指導を行った。今後も大事な書類を期限内に出さなければ社会で通用しないことを何度も言う必要がある。</li> <li>・ルールを守ることに、適宜学年集会を開き、また生徒指導部と連携して指導を行った。特に身だしなみについては守れない生徒が多く、スカートを短くする、スカートの下にジャージをはく、ピアスをつけている、といった生徒への注意、指導を行った。</li> <li>・学年集会では、ほとんどの生徒が教員の言葉にしっかりと耳を傾ける姿勢が見られた。集中できない生徒もいるが、個々に話をするとわかる生徒ではあるので、粘り強く指導していきたい。</li> </ul>
	進路実現に向けて、自学自習の習慣を確立させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Classiなどの学習アプリを活用して家庭学習の時間を記録させ、家庭学習を促す。</li> <li>・夏期進学セミナーを契機とし、進路実現(四年制大学進学)に向けた自学自習を促す。</li> <li>・各種検定試験を活用し、四年制大学進学希望以外の生徒にも自学自習を促す。</li> </ul>	C	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度アプリを活用した学習記録はできなかったが、考査ごとに学習の振り返りを行い、学習習慣の定着を図った。考査前には家庭学習する生徒も、日常的にはほとんどできていない。各教科と連携して家庭学習習慣を身につけさせる具体的な手立てを考えなければならない。またタブレットを使って学習アプリを有効に活用できるような方策も考える必要がある。</li> <li>・夏期進学セミナーや進路別説明会を通して、四年制大学進学希望者には進路実現のために何をすべきかを伝えてきた。2年次では早い時期から進路目標を明確にできるような働きかけが必要である。</li> </ul>
第2学年部	洛東高校の代表であるという自覚を持たせ、校内だけでなく公共の場所でのルールやマナーを守った行動を身につけさせる。進路目標決定と進路実現に向けた学習習慣の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上級生としての自覚を持たせ、時間、身だしなみ、携帯電話の基本的ルールや正しい言葉遣いが定着するように日常的な声かけを行い、関係分掌や保護者と連携して段階的に継続して指導する。</li> </ul>	C	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集会や講演会では時間内に整列し、正しい姿勢で聞くことができた。重要なことについてメモをする習慣も身につけてきている。研修旅行においても時間やルール・マナーを守って行動することができた。</li> <li>・全体的にルールを守ろうとする習慣は身につけてきているが、遅刻や身だしなみについては改善のみられない生徒もおり、学校体制として指導をしていく必要がある。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科担当者と連携をとりながら日々の授業を大切にさせるとともに家庭等での学習習慣を身につけさせ、定期考査に向けて全力で取り組む姿勢を身に付けさせる。</li> <li>・進路目標決定と目標達成に向けて、進路指導部と連携して進路実現に向けた見通しを持たせ、進路に関わる情報収集を主体的に行えるよう指導する。</li> </ul>	C	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路目標決定のために進路説明会や面談を通して進路について意識を高めることができ、定期考査に向けて主体的に学習できる生徒が増えた。</li> <li>・読書週間以外でホームルームにて文章を読む時間を確保することができなかった。</li> <li>・小論文講演会や志望理由書の書き方講演会、ワークブックで基本的な文章の書き方について学び、自身の進路を具体的に考えるきっかけとなった。</li> <li>・第2学年で実施した「Be happy」を通して、関わり合いの少ない教員に話を聞いてもらったり、アドバイスしてもらったりすることで、自身について改めて考える機会となり、長所や好きなことに気づくことができた。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事や部活動、生徒会活動、清掃活動に主体的に取り組むよう促す。</li> <li>・校外学習や研修旅行の取り組みの中で公共の場所での正しい行動の仕方を学び、日々の生活に生かせるように指導する。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校外学習、文化祭、体育祭、研修旅行準備など、委員や係の生徒中心に仲間と協力して主体的に活動することができた。</li> <li>・学校行事において、集団の中での役割分担や協力する姿勢など、様々な場面で力を発揮する生徒が多かった。</li> <li>・人権学習を通して人権に対する意識を高め、学年全体で仲間を大切に作る雰囲気がある。</li> <li>・洛東レビューデーで先生や生徒の話を聞くことで、自分を認める重要性に気づき、自己肯定感を高める生徒が増えた。</li> </ul>

第3学年部	社会を担う一員になることを展望しながら、学校生活を充実させる。進路目標実現のために必要な行動が取れるよう促す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最上級生としての自覚、18歳で成年となることの自覚を持たせながら、時間・身だしなみ・挨拶・携帯電話のルールやマナーについて、日常的な声かけを大切にしながら指導する。指導においては関係分掌や保護者と連携して段階的に、また必要に応じて個別に指導する。</li> <li>・洛東レビューディの取り組み等を通じて振り返りをさせるとともに、しっかりと努力できた生徒をほめる機会を作る。</li> </ul>	C	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教務と連携しながら学期ごとに特別活動の補充を実施してきた。もう少し定期的に、細やかな指導をすべきだった。</li> <li>・身だしなみについては継続的に声をかけたが、十分ではなかった。頭髪は生徒指導部と連携しながら指導に当たった。</li> <li>・携帯電話の指導は適宜担任の預かり指導をしたが、段階を踏んだ指導の必要を感じる。</li> <li>・なかなか素直に指導に従えないものの、学校への信頼は持っており、反動的な生徒はほとんどいない。</li> <li>・レビューディでの発言や、1・2年生に対して自分の経験を話す「3年生の話を聞く会」など、自分の経験を言語化し、活躍する機会を与えてもらう生徒もいた。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科担当者と情報交換しながら日常の授業を大切にさせるとともに、定期考査などでしっかりと力を発揮させる。また自学自習の時間を確保するよう促す。</li> <li>・ホームルームの時間を利用して、新聞ワークシートや小論文ワークを活用しながら、文章を読んだり書いたりする機会を設ける。また文章を書く際には正しい標記で定められた分量の文章を書ききるように指導する。</li> <li>・進路指導部と連携しながら、それぞれの進路に応じた指導をタイムリーに行い、ともに励まし合える学習集団の育成に努める。</li> <li>・早期の進路内定者に対しては、資格試験や検定試験の受験を促しつつ、卒業後を見据えた学校生活を送ることを求めていく。</li> </ul>	C	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は概ね落ち着いて受けることができた。</li> <li>・1年生の時から文章を読ませたり書かせたりを意識的に積み重ね、一定の効果が出た。内容は薄くても、定められた分量は書ける。</li> <li>・進路決定後も気をゆるめことなく真面目に勉強をする生徒が多かったが、踏ん張りきれない生徒も一部いた。</li> <li>・指定校推薦の応募資格に「模擬試験の1回以上の受験」が入った最初の学年であった。趣旨を理解しきれず、マーク式模試をとりあえず受けるだけの生徒も一部にいたが、指定校推薦に応募する際の一定のハードルになったのは良かった。保護者同伴説明会を土曜日に実施するなど、丁寧な対応によって保護者の理解を深めることができた。</li> <li>・通年補習はプログレス必修(ライフ希望者)でスタートしたが、大学進学希望者必修という形にしてもよかった。モチベーションを持った学習集団の形成が重要である。</li> <li>・就職は2年生からの早期の指導により、覚悟を持ったメンバーでスタートすることができ、結果も良かった。公務員は本人のがんばりによって合格を勝ち取ることができた。大学進学に関しては、指定校推薦や総合型選抜で決定する生徒が多数出た。安易に飛びついたわけではなく、希望の進路に進むことができたという点でよかった。共通テストで勝負できる生徒はほほいがないのが実情である。私大一般入試は、少数ながら最後まで受験勉強を続けて合格を勝ち取る生徒がいた。</li> <li>・進路未決定者を出さないように指導を積み重ねてきたが、本人の安易さだけではなく家庭の経済事情なども関係しており、フリーターがやむを得ない場合もある。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事や部活動、生徒会活動、清掃活動に対して、最高学年としての自覚を持って主体的に取り組むよう促す。また行事等においては、生徒自身が企画・運営できる機会を設けるよう努める。</li> <li>・あらゆる機会を捉えて人権に対する理解と意識を高め、人も自分も大切にできるよう促す。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修旅行、文化祭、体育祭と行事を積み重ねる中で徐々に成長する姿が見られた。研修旅行や文化祭で不十分だった点を乗り越え、体育祭は節度や時間を守って1、2年生をリードする取り組みにすることができた。研修旅行の引率団に副担任など生徒のことをよく知っている人が多かったことが良かった。</li> <li>・生徒会は生徒指導部の指導のもと、主体的によくがんばった。またレビューディで自ら発言したがる生徒が出てくるなど、自主性も育ってきた。</li> <li>・部活動を引退までやりきった生徒、引き続き活動を続ける生徒、後輩の様子を見に行き生徒がいる一方で、部活動のたがが外れて緩んでしまった生徒の姿もあった。</li> <li>・人権意識に関しては、不十分さもあるものの、三年間学習を積み重ねる中で成長してきた。担任団と率直にいろんな話ができる生徒が多く、大きなトラブルは起きていない。</li> </ul>	

評価の基準 A:十分達成できている。(目標以上の成果が得られている。) B:ほぼ達成できている。(ほぼ目標通りの成果が得られている。) C:達成できているとはいえない。(成果はあったが、目標は達成できていない。) D:ほとんど達成できていない。(ほとんど成果が得られていない。)

学校関係者評価委員会による評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おおむね達成できており、適切な課題設定と運営がなされている。</li> <li>・目標設定では、一部数値目標も取り入れられており、達成度を客観的に図ることができている。</li> <li>・総合評価で達成できていない項目について、次年度以降の方向性と評価項目の見直しが必要である。</li> <li>・地域は洛東高校を応援している。自然環境、地の利に恵まれており、地域の使える人材を活用し、教育活動を進めてほしい。</li> <li>・夢や楽しさがある高校生活を望んでいる。両立を目指すにはどうすればよいかという視点でも、学校改革を進めてほしい。</li> <li>・洛東高校は頑張っている。イメージもよい。キャリア教育につながる授業も多く展開されている。これからも協力していきたい。</li> </ul>
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少しずつであるが成果が見られる進路指導について、さらなる充実を図りたい。</li> <li>・新学習指導要領の実施と一人1台端末の活用について、授業改善、観点別評価の両面から、さらなる研修が必要である。また、各分掌が連携し、ICT教育をより一層推進する。</li> <li>・スクールポリシーの策定に向け、学校のグランドデザインの明確化を図り、各分掌が連携した学校運営を図る。</li> <li>・学習習慣の定着や基本的生活習慣(遅刻や身だしなみ等)の指導を各分掌が連携して行い、自学自習の習慣を確立するとともに、自らの未来を具体的にデザインし、進路実現を図る体制を強化する。</li> <li>・効果的な広報活動を行い、選ばれる学校づくりを進める。</li> <li>・「働き方改革」を具体的に進めるため、各分掌と協力しながら業務改善を進める。</li> </ul>